

令和8年2月吉日

## 初午祭結果報告書

日 時： 令和8年2月8日（日）

:餅つき8時30分～ :奉納 赤塚諏訪獅子舞 10時～ :祭典 14時～

場 所： 篠塚稲荷神社 境内 諏訪神社榎本宮司による祭事

初午祭の前日は餅米50Kgを磨ぎ、臼・杵・ボイラーなどの必要な道具の確認と準備を行い、宵宮を参加者で祝し、初午祭を迎えた当日は雪が降る中で、青年部、女性部、赤塚ことぶき会及びサロン篠ヶ谷戸の皆様による、餅つきと紅白餅作りが行われました。子供達もこの風景を眺め、突き立ての餅を口にほう張り美味しそうに食してました。奉納者は雪のために今年は59名でした。また、奉納の赤塚諏訪神社獅子舞は雪の為中止になりました。祭礼の式典は雪の為に篠塚稲荷神社の中で挙行されて、町会役員・神社総代等の代表者が厳かに町会内と家族の安全・健康・安寧を祈願されました。



もち米蒸し(蒸籠)



餅つき(餅振る舞いを待つ人達)



紅白餅・辛味餅を作る

### 卍 篠塚稲荷神社 (板橋区 赤塚) の由来と初午祭の概要

篠塚稲荷神社は、東京都板橋区赤塚6-15-24にある地域の稲荷神社です。創建年代ははっきりしませんが、農業を営んでいた篠崎兵衛が日頃の信仰から稲荷神を祀り、自らの私財で神社を建てたのが始まりと伝えられています。祭神は保食命(うけもちのみこと)です。この神社では、例年「二月初午日」に祭礼が行われます。「初午」とは、2月の最初の午(うま)の日を指し、日本全国の稲荷神社で稲荷神の縁日として五穀豊穡や商売繁盛・家内安全を祈願する神事として行われています。初午祭の時には行灯(手作りの行灯)にその時の願い事を記述して、中にろうそくを入れて夜には

明かりを入れて一晩中絶やさず炎の明かりで周辺を照らし幻想的です。初午用の行灯で初午祭の前の日の宵宮を迎えます。子供達は、餅つき体験を行い、つきたての餅を食べたり持ちかえりなどして戴きます。赤塚獅子舞による篠ヶ谷戸町会と皆様の安全安心と無病息災を念じての舞も奉納されます。春日實氏昔話では、大正・昭和の初めの初午祭の宵宮当日には、篠塚稲荷神社境内に掘っ立て小屋を作り、一晩中焚き火をして泊まり込んだ。隣村の連中と戦争ごっこをしたり、仲間同士で朝まで話したりと、この頃の子供達(尋常小学校3年生から参加可能)にとっては年に一度の楽しみだった。



初午祭の奉納赤塚獅子舞



初午祭祝詞



子供達には餅つき体験

篠塚稲荷神社由来は、その昔、この神社の社殿が塚の上に建てられていたというお話を板橋区の郷土資料館で聞いて、見学に訪れてみました。神社は台地の縁辺(俗称とうかみ稲荷山とうかん)にあり、古墳であった可能性が高いと考えられているようですが、残念ながら社殿改築の際に塚は削平されており、跡形もなく消滅しています。『東京都遺跡地図』には未登録の塚です。伝承によると、ここで農業を営んでいた篠崎藤兵衛(後の屋号たばこや)、一説では畑の耕中に仏像らしきものが出土、その場所に社殿を創建が稲荷を熱心に信仰して家運の繁栄を願い、私財を投じてこの稲荷神社を創建したと云われており、篠崎氏の篠と赤塚の塚をとって、地元では「篠塚稲荷」と呼ばれています。明治時代は外国との戦役(日清・日露戦争)があり、篠ヶ谷戸からも明治37年38年日露戦役の2年間に渡り5名(春日長吉、篠崎友吉、春日弥吉、篠崎堅次郎、高尾浜吉)が戦役に従軍され全員が無事帰国した御礼に盾に銘記して奉納されました。年中行事として2月の初午の日に初午祭が行われて地域の子供達の健やかに育つことと安寧を祈願されて今に至っています。また、昭和53年に社殿改築時に篠崎藤兵衛の子孫の篠崎貞雄、篠崎徳榮、高尾利雄の3氏が京都・伏見稲荷大社講務本庁に出向き正式に伏見稲荷神社の分社として承認されて、それ以来この3氏の子孫が篠塚稲荷神社総代として今に至ります。【初午祭は、日本で古くから行われてきた稲荷信仰はつうまさいに基づく祭りで、主に五穀豊穰・商売繁盛・家内安全を祈願する行事です。】